

～胃X線検査を受けられる方へ～

◆検査の方法◆

1. 検査の5分前に、胃の動きや胃液分泌を抑制し、ぶれのないきれいな写真を撮影するために筋肉注射をします。
2. 発泡剤とバリウムをのみ撮影を行います。発泡剤を飲むとお腹が張り、ゲップが出そうになりますが我慢して下さい。
3. バリウムを胃の壁にきれいに付着させるためと、いろいろな角度から、くまなく胃を撮影するために、患者さんに右を向いたり、左を向いたり、回転したりして、体位変換をしていただきます。検査時間は人によって異なりますが、約10分程度です。

◆前処置(検査のために必要な準備事項)◆

- ・ 検査前日の夕食は午後10時までにはすませ、その後は食べないで下さい。飲水は当日早朝より飲まないで下さい。

◆注意事項◆

1. 心臓病や緑内障、前立腺肥大の疑いのある、もしくはそれらの病気にかかっている患者さんは事前に、医師または看護師に申し出てください。
2. 妊娠のおそれのある方は検査できませんので申し出てください。
3. 検査当日は絶飲食(ガムや飴、タバコもいけません)にしてください。(ただし、医師からの処方された血圧、心臓、喘息などのお薬はのんでください。)
4. 検査中は、ゲップをできるだけ我慢してください。(空気で膨らんだ胃がしぼんできれいな写真が撮影できなくなります)
5. 検査後は下剤を飲用し、普段より多めに水分をとってください。

注腸検査(大腸検査)

目的

大腸の炎症性の病気(腸のただれ、きず)、大腸ポリープ、大腸がん、その他をX線写真により診断します。大腸はそのままでは写真に写りませんので、造影剤(バリウム)を肛門から大腸に入れて大腸がよく見えるようにしてから写真を撮ります。

この検査では便が残っているとバリウムが奥まで入らなかったり、便と病変の区別ができなくなります。大腸の中に便を残さないようにするために、検査前日から簡単な食事制限をしたり、下剤を飲んでいただきます。

前処置(検査のために必要な準備事項)

- 検査前日、検査当日の前処置があります。
- 詳細は予約表に明記されています。
- 前処置通りに準備ができなかった方や、薬を服用しても水のような便にならなかった方は、検査が受けられないことがありますので、当日必ず申し出てください。

検査の方法

検査の前に、大腸の動きを抑え、ぶれのないきれいな写真を撮影するために、注射をします。

X線検査台の上に横になって頂き、肛門に細いゴムのチューブを約3センチメートルほど挿入します。このチューブから、バリウムを約300CC注入し、次に空気を注入して腸管を膨らませます。

そして、バリウムを腸管の隅々まできれいに付着させてからX線写真を撮影します。腸管は、長く複雑な走行をしているので、バリウムを奥まで移動させるためと、いろいろな角度で腸管を撮影するために、患者さんに体位変換をしていただきます。検査の所要時間は約15分～20分程度です。

注意事項

- 心臓病や緑内障、前立腺肥大の疑いのある、もしくはそれらの病気にかかっている患者さんは、事前に医師に相談してください。
- 妊娠の可能性のある方は検査できませんので、申し出てください。

RI(核医学検査)

RIとはラジオアイソトープ (radioisotope:RI) の略で放射性同位元素のことです。RI検査は、微量の放射性同位元素(RI)を体内に静脈注射等で投与し、放射性同位元素(RI)が発する微量の放射線の動態を体外からガンマカメラ装置で撮影する検査です。転移性骨腫瘍の検出、脳や心筋の血流検査、腎機能検査、甲状腺検査、リンパ節検査など多種多様の検査があり、目的に応じて様々な RI を使い分けます。

前処置も検査によって異なりますので、詳しくは予約の時にご説明します。

